

TDM推進委員会見聞録（第壹章）

TDM 推進委員会が設置されました

平成13年度に策定しました「相模原市総合都市交通計画」における部門別計画の一つである「TDM基本計画」を推進するために、この度「**TDM推進委員会**」（以下「委員会」という。）を設置して、県道54号（相模原・愛川）の渋滞緩和のために、「TDMワークショップ」（以下「WS」という。）と連携を図りながら、TDM施策の抽出、社会実験、及び検証に関することを検討することになりました。

今年度中に委員会を4回開催する予定で、その記念すべき第1回目が平成16年8月3日（火）14：00から相模原市第2別館第3委員会室で行われ、委員紹介、委員会設置要綱の承認後に、互選により委員長として東京海洋大学の高橋洋二教授が選出されました。

委員の構成メンバーは、学識経験者、国土交通省、神奈川県、神奈川県警本部、愛川町、周辺企業、交通事業者、WS代表、相模原市からなる22名となっています。

TDMとは・・・自動車利用者など移動主体の交通行動の変更を促す事により、都市・地域レベルでの交通渋滞を緩和する手法の体系を指します。



高橋委員長あいさつ要旨

委員長の就任にあたり、ごあいさつがありました。

TDMは行政だけで考えるのではなく、道路利用者側にも働きかけることが必要。

TDMは世界的な動きであり、成功例も出てきている。相模原市ではすでにワークショップを数回開催している経緯がある。

TDMを成功させるためには、道路管理者、交通管理者、交通事業者、商店会、企業、市民等、多数の関係者の合意、協力、工夫が不可欠。

市民参加により問題と課題を発掘し、TDM施策を検討し社会実験という流れも1つの方法。さすがにTDMについての経験が豊富で、その道の権威である高橋委員長のお言葉は重く、説得力あるお話でした。



議題について

高橋委員長の進行により議題が進められました。以下その内容を掲載します。

（1）相模原市総合都市交通計画の概要を説明

策定された経緯や目的、TDM基本計画の位置付け等等が事務局より説明されました。

（2）県道54号（相模原・愛川）の状況説明

各交差点における交通量調査の結果などを事務局より説明したところ、混雑の原因やバス路線の状況、企業バスの運行状況などの質問が出されました。

また、委員の皆さんから事務局へ対して、次の資料提供の要望がありました。

バスネットワークの変化とバス利用者数の変化の時系列的データ。 市政世論調査の結果の集計データ。 企業による送迎バスの利用状況、乗用車の乗車人員に関する現状。送迎や上下方向の交通のODに関するデータ。 自動車の通勤者のOD データ。 交差点における方向別交通量のデータ。

事務局で既に把握しているものや、これから調査が必要なものなどがありますが、各委員の皆さんのご協力を得ながら、次回の委員会に報告する準備を進めていきます。

(3) 平成15年度設置のWSの活動内容説明

WSは平成15・16年度で9回の開催を予定しており、現在までに行われた5回の内容について事務局より説明されました。



WS代表者からは、路上駐車が多発場所、渋滞迂回車両が生活道路へ進入して安全が脅かされている状況、高齢者に配慮したバス運営の必要性など、WSで整理されてきた地域情報ならではの意見が出されました。

(4) 今後の進め方を説明

関係者が一堂に会して議論する本委員会と、沿線住民からなるWS間でキャッチボールすることが重要であるとともに、机上で考えるだけでなく、繰り返し改善を図るという手順をとる必要性が委員長より説明されました。

(5) 各委員の意見・感想

最後に、委員の皆さんに一人ずつお話を伺ったところ、事務局へ対して次の資料提供の要望がありました。

迂回路における事故発生件数の把握。 迂回地区（水郷田名）の住民意見の把握。

愛川内陸工業団地への通勤状況。 環境面（NOX、CO2、SPM）等のデータ。

また、「WSの報告により、これまで認知してなかった様々な実態が明らかになった。」や「中途半端なものではなく、思い切った社会実験が必要である。」などの発言もあり、活発な意見交換となりました。

(6) その他

次回の第2回委員会は10月6日（水）午後2時から相模原市役所にて開催されます。

委員会を終えて

高橋委員長の進行により、第1回目の委員会の議題が全て終了しました。

それぞれの立場での専門家の方々が構成メンバーですので、最初から専門的かつ具体的な議論が行われて、充実した委員会でした。

高橋委員長のお言葉を借りますと「住民や周辺企業、商店街や行政など多くの人達が少しずつ痛みを分け合うことによって、それ以上に渋滞緩和に伴うメリットが戻ってくるすばらしい施策をつくり出す場として、TDMワークショップとともに活用していきたい。」と言われていたとおり、TDM 施策の推進には「**三方一両損**」の精神が重要となってきます。みなさんの関心が高まり、理解を深めることによって、TDM施策が推進されていくことが望まれていますので、今後も委員会が開催されるごとに、「TDM 推進委員会見聞録」を発行していきます。

なお、詳しい会議録は、相模原市ホームページの「審議会等の情報」よりお入りください。